



平成30年7月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年6月11日

上場会社名 株式会社ジャパンミート 上場取引所 東  
 コード番号 3539 URL <http://www.japanmeat.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 境 正博  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経理部長 (氏名) 杉山 洋子 (TEL) 03 (6453) 6810  
 四半期報告書提出予定日 平成30年6月12日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年7月期第3四半期の連結業績 (平成29年8月1日～平成30年4月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年7月期第3四半期	81,280	5.5	3,637	14.6	3,720	13.5	2,216	1.5
29年7月期第3四半期	77,019	5.8	3,173	△9.0	3,277	△6.0	2,184	4.3

(注) 包括利益 30年7月期第3四半期 2,294百万円(△1.9%) 29年7月期第3四半期 2,337百万円(12.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年7月期第3四半期	83.20	—
29年7月期第3四半期	81.87	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年7月期第3四半期	41,408	23,408	56.5
29年7月期	37,945	21,647	57.0

(参考) 自己資本 30年7月期第3四半期 23,408百万円 29年7月期 21,647百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年7月期	—	10.00	—	10.00	20.00
30年7月期	—	10.00	—	—	—
30年7月期(予想)	—	—	—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年7月期の連結業績予想 (平成29年8月1日～平成30年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	109,647	5.7	4,180	5.8	4,242	3.8	2,270	△15.1	85.22

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 社(社名) 、除外 社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

会計方針の変更に関する注記

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年7月期3Q	26,679,500株	29年7月期	26,679,500株
② 期末自己株式数	30年7月期3Q	42,767株	29年7月期	42,767株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	30年7月期3Q	26,636,733株	29年7月期3Q	26,679,323株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (業績の状況)

当第3四半期連結累計期間(平成29年8月1日～平成30年4月30日)における我が国経済は、企業収益の改善や雇用の拡大が続き、景気は緩やかに回復しておりますが、一方で賃金上昇は非正規雇用中心であることや将来不安からデフレマインドの脱却、個人消費の回復には至っておらず、食品の消費者物価は弱めの動きとなっております。

食品小売業界におきましては、コンビニエンスストアやドラッグストアなど他業態との事業領域の垣根が低下するとともに、ネット通販やネットスーパーの拡大、食品宅配事業へ参入する企業が年々増加するなど事業環境が大きく変化してきております。

このような状況のもと、当社グループは、お客様の暮らしの基本である食を通して、安心・安全を守り、値頃感があり、変化に富んだ店づくりをすることで、さらなるご支持をいただけるような店舗運営に努めてまいりました。

当第3四半期連結累計期間における経営成績は、スーパーマーケット事業において前連結会計年度に出店した5店舗及び前連結会計年度より当社グループ入りしたAATJ(株)、(株)アクティブマーケティングシステムの寄与などがあり、売上高は81,280百万円と前年同四半期と比べ4,261百万円(5.5%)の増収となりました。

スーパーマーケット事業において年間最大の繁忙期である年末商戦が好調に推移したことに加え、前連結会計年度に出店した5店舗の採算が徐々に改善していることにより、営業利益は3,637百万円と前年同四半期と比べ464百万円(14.6%)の増益、経常利益は3,720百万円と前年同四半期と比べ443百万円(13.5%)の増益となりました。

前連結会計年度に当社子会社の本社ビル建替に伴う退去費用として受取補償金99百万円及び、連結子会社化した(株)アクティブマーケティングシステム株式の段階取得に係る差益243百万円としていた特別利益が減少し、法人税等合計が68百万円増加したため、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,216百万円と前年同四半期と比べて31百万円(1.5%)の増益となりました。

当社グループにおける事業セグメントごとの状況は、次のとおりであります。

#### ① スーパーマーケット事業

スーパーマーケット事業につきましては、大型商業施設内店舗「ジャパンミート生鮮館」、関東圏単独店舗「ジャパンミート卸売市場」、北関東で展開する地域密着型店舗「パワーマート」、東京都内を中心に展開する業務用スーパー「肉のハナマサ」を展開しております。

いずれの店舗におきましても、来店される顧客が楽しんでお買い物ができる店づくりを目指し、当社グループの強みである精肉部門を中心とした生鮮各部門および一般食品から惣菜にいたるまで、それぞれの部門が商品力・技術力に磨きをかけ、お客様のニーズにあった値頃感のある商品展開をすすめ、より安心・安全な商品を提供できるよう、努めてまいりました。

商品の販売につきましては、特定の商品を大量に陳列し、値頃感がある商品を顧客へアピールすることで購買意欲を高める「異常値販売」を定期的実施するほか、グループ各社で開発した商品を共有し販売を行うことで、販売点数及び商品の仕入れの向上、採算の安定に繋がるよう努めてまいりました。

また、当社の加工物流センターでの大量かつ効率的な精肉加工、商品供給を行うことで店舗オペレーションを安定的にサポートするほか、店舗内においても必要に応じて精肉加工を行い、売れ筋に対応した商品の速やかな提供により販売機会のロスを削減するなど、戦略的、効率的な販売に努めております。商品の仕入につきましては、当社の加工物流センターにおける大量備蓄機能を活用することで、食材価格変動の影響を受けにくい商品仕入体制を構築し、採算の安定と在庫の確保を図ってまいります。

当第3四半期連結累計期間の店舗の状況は、平成30年3月に「肉のハナマサ」八王子店(東京都八王子市)を新規出店いたしました。既存店舗におきましては平成29年11月に「肉のハナマサ」錦糸町店(東京都墨田区)の改装を行いました。また、平成29年9月に「肉のハナマサ」金沢店(神奈川県横浜市)が賃貸借契約期間満了に伴い閉店いたしました。これにより、当第3四半期連結累計期間末時点におけるスーパーマーケット事業の店舗数は80店舗となりました。

当第3四半期連結累計期間における経営成績につきましては、前連結会計年度に新規出店した5店舗の売上寄与と、同店舗の採算が徐々に改善していることに加え、年間最大の繁忙期である年末商戦が好調に推移したことにより、売上高78,249百万円と前年同四半期と比べて2,755百万円(3.6%)の増収、セグメント利益(営業利益)は3,359百万円と前年同四半期と比べて345百万円(11.5%)の増益となりました。

## ② その他

その他につきましては、外食事業、イベント関連事業、アウトソーシング事業で構成されております。

外食事業につきましては、主に「焼肉や漫遊亭」を展開しております。当第3四半期連結累計期間におきましても、得意とする精肉の調達力、ノウハウを活かし、新鮮で高品質な料理を安価でご提供できるよう努めてまいりました。また、おいしい商品と快適な食事空間を提供するという基本方針のもと、新メニューの開発をすすめ、他店との差別化を図り、お客様が楽しく食事ができる店づくりに努めてまいりました。

当第3四半期連結累計期間の外食事業の店舗の状況は、平成30年2月に「焼肉や漫遊亭」八街店を開店いたしました。既存店舗におきましては平成29年11月に「焼肉や漫遊亭」水戸50号店の改装を行いました。これにより当第3四半期連結累計期間末時点における外食事業の店舗数は16店舗になりました。

イベント関連事業につきましては、平成29年2月に連結子会社いたしましたAATJ(株)において「肉フェス」など食に関わるイベントの展開、国内外のイベント制作、運営などイベント関連事業を行っております。当第3四半期連結会計期間の活動状況といたしまして、ゴールデンウィーク期間に「肉フェスTOKYO2018春」(東京都江東区)、「肉フェスOSAKA2018春」(大阪府大阪市東住吉区)、「肉フェスHIROSHIMA」(広島県広島市中区)を開催いたしました。今後も食肉及び地域の食文化の魅力を国内外に発信する取り組みを行ってまいります。

アウトソーシング事業につきましては、平成29年4月に連結子会社いたしました(株)アクティブマーケティングシステムにおいて、スーパーマーケット業界における、レジ業務の受託をコアビジネスとしたアウトソーシング事業を行っております。スーパーマーケットの実務経験に基づいた独自のノウハウによって、顧客のニーズに応える、質の高いサービスを提供しております。当社におきましては、スーパーマーケット事業の「ジャパンミート生鮮館」、「ジャパンミート卸売市場」、「パワーmarkt」においてレジ業務を(株)アクティブマーケティングシステムへ委託しております。レジ業務のプロフェッショナルとして新規顧客開拓を行い、業容の拡大に努めてまいります。

当第3四半期連結累計期間における経営成績につきましては、前連結会計年度より当社グループ入りしたAATJ(株)、(株)アクティブマーケティングシステムの売上寄与のほか、前年度に引き続き外食事業の売上高が好調に推移した結果、その他の事業の売上高は4,329百万円と前年同四半期と比べて2,346百万円(118.3%)の増収、セグメント利益(営業利益)は253百万円と前年同四半期と比べて107百万円(74.0%)の増益となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度と比べ3,462百万円増加し、41,408百万円となりました。流動資産は4,055百万円増加し、固定資産は592百万円減少しております。主な要因は、期末日が休日であったことから資金決済が翌月に持ち越されたことを含む現金及び預金の増加2,833百万円及びたな卸資産の増加290百万円及び、減価償却を含む有形固定資産の減少408百万円によるものであります。

負債につきましては、前会計年度と比べ1,701百万円増加し、17,999百万円となりました。主な要因は、期末日が休日であったことから決済が翌月に持ち越されたことを含む買掛金の増加2,725百万円の方で、短期借入金340百万円、長期借入金607百万円減少したこと等によるものであります。

純資産につきましては、前会計年度と比べ1,761百万円増加し、23,408百万円となりました。主な要因は親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等による利益剰余金の増加1,683百万円によるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しにつきましては、平成29年9月13日付発表の「平成29年7月期 決算短信」の記載から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	10,158	12,992
売掛金	1,170	1,212
たな卸資産	4,089	4,380
その他	1,974	2,862
流動資産合計	17,392	21,447
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,289	7,170
その他(純額)	4,028	3,738
有形固定資産合計	11,317	10,909
無形固定資産		
のれん	3,107	2,794
その他	683	619
無形固定資産合計	3,791	3,413
投資その他の資産		
敷金及び保証金	4,231	4,312
その他	1,240	1,353
貸倒引当金	△28	△28
投資その他の資産合計	5,443	5,637
固定資産合計	20,552	19,960
資産合計	37,945	41,408

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年7月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年4月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	5,023	7,749
短期借入金	1,186	846
1年内返済予定の長期借入金	586	596
未払法人税等	886	661
賞与引当金	296	166
その他	3,221	3,637
流動負債合計	11,200	13,657
固定負債		
長期借入金	3,355	2,748
退職給付に係る負債	315	347
資産除去債務	445	445
その他	980	800
固定負債合計	5,097	4,341
負債合計	16,297	17,999
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,229	2,229
資本剰余金	2,350	2,350
利益剰余金	16,904	18,587
自己株式	△45	△45
株主資本合計	21,437	23,121
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	230	306
退職給付に係る調整累計額	△21	△19
その他の包括利益累計額合計	209	287
純資産合計	21,647	23,408
負債純資産合計	37,945	41,408

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成30年4月30日)
売上高	77,019	81,280
売上原価	54,801	58,258
売上総利益	22,217	23,022
販売費及び一般管理費	19,044	19,385
営業利益	3,173	3,637
営業外収益		
受取ロイヤリティー	49	47
受取手数料	7	7
その他	65	93
営業外収益合計	122	148
営業外費用		
支払利息	15	23
解約手数料	—	21
その他	2	19
営業外費用合計	18	64
経常利益	3,277	3,720
特別利益		
受取補償金	99	—
段階取得に係る差益	243	—
特別利益合計	343	—
税金等調整前四半期純利益	3,620	3,720
法人税、住民税及び事業税	1,337	1,464
法人税等調整額	98	40
法人税等合計	1,436	1,504
四半期純利益	2,184	2,216
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,184	2,216



## 四半期連結包括利益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年8月1日 至 平成29年4月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年8月1日 至 平成30年4月30日)
四半期純利益	2,184	2,216
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	152	75
退職給付に係る調整額	0	2
その他の包括利益合計	153	77
四半期包括利益	2,337	2,294
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,337	2,294
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自平成29年8月1日至平成30年4月30日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成28年8月1日至平成29年4月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	スーパー マーケット事業				
売上高					
外部顧客への売上高	75,036	1,983	77,019	—	77,019
セグメント間の内部売上高 又は振替高	457	—	457	△457	—
計	75,494	1,983	77,477	△457	77,019
セグメント利益	3,014	145	3,159	13	3,173

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外食事業及びイベント関連事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額13百万円は、セグメント間取引消去額であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年8月1日至平成30年4月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	スーパー マーケット事業				
売上高					
外部顧客への売上高	77,765	3,515	81,280	—	81,280
セグメント間の内部売上高 又は振替高	484	814	1,298	△1,298	—
計	78,249	4,329	82,579	△1,298	81,280
セグメント利益	3,359	253	3,613	24	3,637

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、外食事業、イベント関連事業、アウトソーシング事業を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額24百万円は、セグメント間取引消去額であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。